

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレシアスの食卓 ― 河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点 ― 読者の声・編集者の声



乱費された血税、すでに4兆円。消費者は「補助金漬け」にされ、政権は人気取りのため世紀の愚策を止められない。財政を破壊する「ばら撒き」は誰が始めて、誰を肥やしているか。納税者必読の全真相。(110頁)

- 110 **ガソリン補助金** ― この凄まじき亡国の「大衆迎合」
- 108 **米国スポーツ賭博の光と陰**
 - 水原一平が堕ちた闇の「蟻地獄」
 - 日本のサンクチュアリ ● シリーズ 5%
- 98 社会・文化 ● 情報カプセル
 - 100 医師「働き方改革」の黒い舞台裏 ― 大病院と医系技官の「新利権」
 - 102 天使OBが破壊する大学教育 ― 天下り教授「急増」で若手学者の絶望
 - 104 農業基本法改正案は「廃案」にせよ ― 議論拙速「食料安保」に逆効果
 - 106 経済安保情報法案の危うい盲点
 - 国会議員「除外規定」でサル法に
- 80 金融の世紀 ― 黒木亮
- 88 皇室の風 ― 岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う ― 河谷史夫
- 96 をんな千一夜 ― 石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし

3 連載「巻頭インタビュー」向大野新治 ― 国会は権力闘争の「劇場」であれ

6 **「極右」に覆われる世界**

●特別レポート

米欧中露に蔓延する「過激思想」

12 米民主党「支持基盤」が四分五裂 ― バイデン再選に「内なる危機」

14 欧州機関「女性2トップ」の苦難 ― 政治と経済で試練の日々

16 **欧州が描くウクライナ戦争「凍結」**

■膨張する「支援反対」への焦燥

18 **WORLD ● 情報カプセル**

22 ギャングに乗っ取られたハイチ ― まるで世紀末「暴力映画」の世界

24 イランが策謀「紅海航路の麻痺」 ― スーダンに「拠点構築」の衝撃

28 **五期目プーチンの次なる「侵略計画」**

■ベラルーシ併合「大スラブ圏」の野望

30 インドは民主主義国なのか ― モディ「宗教過激主義」の暗闇

32 **フイリピン防衛日米の難題**

■中国の海洋侵略をどう防ぐか

34 中国「南極・北極進出」の強欲 ― 危惧される環境破壊と軍事衝突

36 **台湾「金門島」を掠め取る中国**

■現状変更の危機に静観の米国

38 連載「現代史の言霊」四月の追悼 ― 天安門事件⑤ 胡耀邦死去（一九八九年）

44 政治 ● 情報カプセル

46 **麻生・茂木連合の勝算**

■裏金政局「政権奪取」の密謀

48 **六月解散「岸田の大博打」**

■反対勢力との「冷たい攻防戦」

52 連載「政界スキヤン」秘書政治の権化「森喜朗の終幕

54 **それでも「岸田降ろし」がない理由**

■政界「総弛緩」はまだ続く

56 官邸漂流「栗生官房副長官の大罪」 ― 霞が関を統率できない「小役人」

58 連載「罪深きはこの官僚」山野謙（総務省自治行政局長） ― 菅義偉の「寵臣」が壊す地方分権

ロシアと中国はより愛国主義色を強め、米国の半分はトランプ主義に傾く。欧州各国の極右政党は政治の主流に躍り出た。この恐るべき病は国際秩序を狂わせ、対立と暴力をまき散らす。猛威を止める術がない。(6頁)



政倫審も支持率底いもどこ吹く風。首相に居座る「異次元の鈍感力」が志向するのは、議席減が前提の解散総選挙。反対する勢力も、岸田に代わる「顔」がない。誰も望まぬ政権続行へ、賭けに出られるか。(48頁)

60 日本株はまだ「割高」ではない ― 苦節三十年を経て迎えた「普通」

62 JR東日本「大事故発生」の予兆 ― 新社長でも続く「安全軽視体質」

64 **あおぞらとSBI「新生統合」の成否**

■北尾の背を押す村上世彰の「魂胆」

67 連載「クローズアップ」

宮田知秀（NEOSホールディングス社長） ― 前任「二に劣らぬ」悪評まみれ

68 **仁義なき「企業買収時代」の幕開け**

■日本資本市場も「弱肉強食」が定着

70 政策保有株は「絶対悪」なのか ― 地方銀行が抱える「特別な事情」

72 **住友商事「トップ人事」が示す病理**

■同期三人「友達経営」が残す禍根

74 経済 ● 情報カプセル

78 連載「地方金融の研究」足立成和信用金庫 ― 「東築合併」都内業界再編の号砲

82 海運「再混乱」は長く深刻に ― スエズとパナマ「複合危機」の行方

84 連載「企業研究」 **日本製鉄**

■米社買収提案で墮ちる地獄

USスチール買収は米大統領選も絡む政争の具となった。米政府が否決すれば、巨額の違約金を支払うハメに。認可しても買収後に背負う資金リスクは並ではない。どう転んでも、この先は炎の道だけだ。(84頁)



●写真提供/時事通信フォト 共同通信イメージズ 朝日新聞社など